



われわれは、現地に入って 手と足を動かしてナンボという、 現場ありきの研究者です

エジプトと中国の地域研究を クロスオーバーさせる

エジプトの首都カイロでは、市の中心部を取り囲むように、地方から流れ込んできた貧しい人々がスラム街を形成しています。そういう人々がどこから来て、どうやって仕事を探し、どんな職業に就いているのか。エジプトの国家統計局ともタイアップして、世帯別に聞き取り調査をし、集めたデータを分析するという研究プロジェクトをすすめています。日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究の一つで、代表者は私と同じ地域経済研究専攻の加藤博先生。私は分担者という立場での参加です。

地域経済専攻というと、よく誤解されるのですが、本学の経済学研究科でいう「地域」は、国内の地域ではなく、外国の地域、それも発展途上国や旧社会主義国など広い意味での移行経済諸国を指していて、谷口晋吉先生はインド、加藤博先生はエジプト、私は中国というように、研究者がそれぞれに専門とする地域をもっています。

中国を専門にしている私がなぜエジプトでの研究プロジェクトに参加しているかといえば、両国に共通する何かが見えてくるかもしれない、違いが見えてくるかもしれない、それを比較してみようという狙いがあることです。エジプトも中国もある種の計画経済から市場経済に移行しつつある国で、そういう国における所得格差と貧困の問題をテーマにしているという点では、お互いに似通ったことをしていますから、研究をクロスオーバーさせることで得られることも少なくないのです。

数量データと聞き取り調査を 組み合わせた分析

私が一橋に入ったのは、日中国交が成立してまだ間もない頃のことです。中国が一種のブームになっていた。そんな背景もあって、学生時代には中国の歴史、特に近現代史を勉強していたのですが、1980年代の半ばから、中国における世帯所得と貧



困についての、フォード財団の助成による大規模な国際研究プロジェクトがスタートしていて、そのプロジェクトに参加するようになってからは、もっぱら現代の地域問題を扱うようになっていきます。

現代の問題を扱うといっても、制度的・歴史的な背景を探るという手続きは欠かせませんから、歴史分析も現状分析も、研究手法にそんなに大きな開きがあるわけではありません。ただ、地域研究では、基礎的な数量データと、それとセットになる定性的な情報をできるだけ自分の手と足で集めて、それをベースにして発言するということに存在意義もあるわけで、私の場合は、中国各地の農民や村長に、ここにこういう数字があるのですが、なにか特別なことでもあったのですかというようなことをインタビューしてまわっています。一つ一つは一見価値のなさそうな情報でも、それをたくさん集めていくと、そこから全体としてのある傾向が読み取れるようになるのです。

その意味では、われわれは現地に入って身体を使ってナンボという、肉体派研究者だといっていいでしょうね（笑）。

人々の迷惑の上に 成り立っている研究

聞き取り調査の対象が貧困な地区に住む貧困な人々に傾くのは、貧困があらゆる経済活動の結果として生じる現象で、貧困



からアプローチするとあらゆる経済問題が浮き彫りになるからですが、率直に言えば、話を聞いて面白いのは、富裕層より貧困層のほうだということもあってのことです。いずれにしろ、よその国の人々の生活を、根掘り葉掘り話を訊いて、米びつまでのぞいて、それを研究素材にしているわけですから、ある意味人の迷惑の上に成り立っている研究なんですね（笑）。威張ってはいえたものではない（笑）。

もちろん、農村部と都市部の所得格差は中国でも大きな政治課題になっていて、われわれの研究を政策提言に結びつけることはそう難しいことではないのですが、地域研究というのは、もともとはアメリカの戦後の世界戦略の中で生臭い政治と結びついて成立した学問領域ですから、私個人としては、そこは逆に禁欲的でありたいと考えています。ひらきなおって言えば、その国では当たり前のことが、よその国から見たらそう当たり前のことではないよということを示す、そのことが間接的に役立つこともある、というくらいのところでいいのかなと。

役立つということであれば、むしろ本学の学生諸君にとってということのほうが大きいのではないのでしょうか。社会に出ると、こういう地域研究を通して身につけた現場感覚のようなものが必要とされる局面がけっこう多いと思うのです。たとえば東南アジア諸国の日系企業で働く労働者がどんな背景をもって働いているかというようなことが感覚的に理解できるかどうかで、仕事の見え方はまるでちがってくるでしょうね。（談）



経済学研究科教授

佐藤 宏

Hiroshi Sato

1957年生まれ。1975年一橋大学経済学部入学。

1989年同大学院社会学研究科博士後期課程（地域社会研究専攻）単位修得・退学。

日本学術振興会特別研究員を経て、1991年一橋大学経済学部にて専任講師として入職。

主な研究テーマは、

(1) 中国の体制移行・経済発展過程における所得配分と貧困。および

(2) 中国農村におけるフォーマル・インフォーマルな制度形成と経済発展。

中国・欧米の研究者との協力による複数の

共同研究プロジェクトを通じて、定性的データ（聞き取り調査）と

数量データ（世帯・村落調査データ）を組み合わせた

分析に取り組んでいる。また学部講義では

中国現代経済史、アジア地域経済論など、

大学院ではこれを発展させた東アジア経済特論、

ワークショップ・リサーチワークショップ

（アジア地域経済）などを担当している。